

様式第2号（政務調査活動実施報告書）

平成'24年11月28日

井原市議会議長

宮地俊則 様

井原市議会議員

上野 安是

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成'24年11月21日(水)～11月22日(木) 〈2日間〉
2. 研修会等の開催地または視察先	全国市町村国際文化研修所 (滋賀県大津市唐崎)
3. 研修会等の名称または視察内容	平成'24年度第3回市町村議会議員 特別セミナー
4. 研修会等の講師名または視察先の担当者名	別添のとおり
5. 調査活動内容	別添のとおり

1. 報告書は、調査活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

第 3 回市町村議会議員特別セミナー 講師紹介

【11月21日(水)】

(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー 専務取締役

竹中 功 (たけなか いさお) 氏

1959 年生まれ。同志社大学法学部法律学科卒業。総合政策科学研究科修士修了。

1981 年、吉本興業株式会社入社。宣伝広報室を設立し、「マンスリーよしもと」初代編集長を務める。広報センター長を経て、2010 年 4 月取締役就任。2012 年 1 月より現職。

「吉本興業百年史編集室」「創業 100 周年プロジェクト」なども兼務。

吉本総合芸術学院 (NSC) 開校を手がけた他、河内家菊水丸のイラク・ソ連・北朝鮮公演、大阪府中央区コミュニティ FM 局「YES-fm」の開局と初代放送局長への就任、兵庫県加美町の総合計画書作成や北海道北見市、岡山県勝北町、奄美大島、沖縄市等の町おこしなど、幅広い事業を手掛ける。

また「ナビィの恋」、「無問題/モウマンタイ」など多数の映画も製作している。

同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授

新川 達郎 (にいかわ たつろう) 氏

1950 年生まれ。1981 年早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学。

その後、(財)東京市政調査会研究員、東北学院大学法学部助教授、東北大学大学院情報科学研究科助教授を経て、1999 年より現職。日本公共政策学会会長。

主な著書として、『コミュニティ再生と地方自治体再編』(共編著、2005 年ぎょうせい)、『参加と協働の地域公共政策形成システム』(共編著、2008 年日本評論社)、『持続可能な地域形成のためのガバナンス』(共編著、2011 年日本評論社)、『公的ガバナンスの動態研究』(編著、2011 年ミネルヴァ書房)などがある。

【11月22日(木)】

地域再生プランナー

久繁 哲之介（ひさしげ てつのすけ）氏

1962年生まれ。1986年早稲田大学卒業後、日本IBMを経て現在は民間都市開発推進機構都市研究センター研究員。

千葉県「商店街あり方検討会」委員など商業振興に関わる公職を多数務めている。また、NPO ファザーリング・ジャパン、NPO ストリートデザイン研究機構、NPO情報ステーションにてアドバイザーを務め、NPO活動を支援している。

主な著書としては、『日本版スローシティ』（2008年学陽書房）、『地域再生の罫』（2010年ちくま新書）、『コミュニティが顧客を連れてくる』（2012年10月商業界）などがある。

東京大学名誉教授

船曳 建夫（ふなびき たけお）氏

1948年生まれ。東京大学教養学部教養学科卒業。ケンブリッジ大学大学院社会人類学博士課程にて人類学博士号を取得。

1983年東京大学教養学部講師、1985年同助教授、1994年同教授、1996年東京大学大学院総合文化研究科教授を歴任。2012年同大学院を定年退官、名誉教授。文化人類学者。

主な著書として、『国民文化が生れる時』（1994年リプロポート）、『知の技法』（1994年東京大学出版会）、『新たな人間の発見』（1997年岩波書店）、『柳田国男』（2000年筑摩書房）、『二世論』（2003年新潮文庫）、『「日本人論」再考』（2003年NHK出版；2010年、同名にて講談社学術文庫にて再刊）、『大学のエスノグラフィティ』（2005年有斐閣）、『右であれ左であれ、わが祖国日本』（2007年PHP新書）、LIVING FIELD, (2012年 The University Museum, The University of Tokyo) などがある。

平成24年度 「第3回市町村議会議員特別セミナー」 時間割

(敬称略)

月日	曜日	9:00-	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00~)
11/21	水			11:00-12:00 受付 11:30- 昼食 13:00- 開講・日程説明	【講義】(13:15-14:45) 「活気あるまちへの挑戦 ～リーダーに必要なもの～」 (株)よしもとクリエイティブ・ エージェンシー 専務取締役 竹中功	【講義】(15:00-16:30) 「地域の再生に必要なもの」 同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授 新川達郎	16:30- 入寮オリエンテーション 17:30- 交流会	
				2階【講堂】	2階【講堂】	2階【講堂】	1階【大食堂】	
11/22	木	【講義】(9:00-10:30) 「地域の再生と活性化～市民が 豊かになる地域再生策～」 地域再生プランナー 久繁哲之介		【講義】(10:45-12:15) 「まちの文化人類学～住み続 けたいまちとは～」 東京大学名誉教授 船曳建夫	12:15- 閉講・昼食後解散			
		2階【講堂】		2階【講堂】				

◎日程は、都合により変更になる場合があります。

(平成24年10月9日現在 受講決定通知時の内容)

4
11

「活気あるまちへの挑戦〜リーダーに必要なもの」

講師： 竹中 功氏

(株)よしもとクリエイティブエージェンシー 専務取締役)

- ・ 吉成興業(株)は 明治45年(1912年)〜100年
- ・ 創業者の一言 「芸人は商品や」
 - 「商品だから大事にしろさい、丁寧に扱え」
 - 「高く買ってもらえるよう磨きなさい」
- ・ 芸人と 契約書は いっさい 交していない
 - …なぜ成立しているのか
 - ・ 人々との約束(信頼、助け合い)が大事
 - ・ 人と人のつき合いを裏切らない

・ 芸人 ← (お金・時間)
(笑) → お客

・ 考え方の多様性

たとえば

1) みかんを分ける

Aさん


<みかん>


Bさん


(win winの法則、both winの法則)

- ① Aが 2つに 割って Bが好きな方をとる
- ② じゃんけん、10円玉、カードで決める。(ルールに基づいて)
- ③ 皮をむいて 小袋の数で 2等分する
- ④ 皮をください、その他はあげます
(たねをください)
- ⑤ ジューズにして分ける

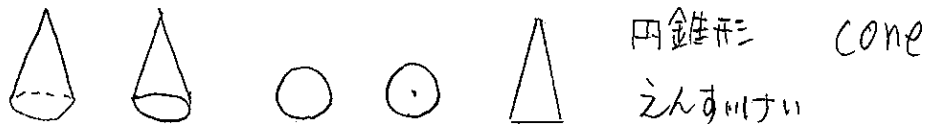
- ⑥ のりを4袋あげるから みかんを下さい。
- ⑦ 肩を揉んであげるから みかんを下さい。
- ⑧ オミ君Cが「さくらんぼ」をくれたら ABの みかんをあげる。

分配のバランスを考える。

数(量)の分配 → 質の分配(価値の創造)

これこそがサービス業の肝

2) 「円錐形を書け」



・自分で円錐形のまわりを歩いてみたらもっとよく見える。

- ・大切なことは 自分の中にあるものと 出会う訓練をすること
(往々にして 自分の中にあるものを忘れていってしまう)
- ・人づくり、ものづくり、カネづくり が大事
- ・まちおこしについて
 - 考える ◦決める ◦動く (この時: 地元の人がいなくなる)

さまざまな分野から 様々な人を 集め、個々が持っている情報を交換、共有し、価値を創造することが重要で、かつ、エンjoyユーザーを視野に入れた展開を常に考えていく必要がある。

大切なことは 成功するまで あきらめない ことである。

「地域の再生に必要なもの」

講師：新川達郎氏

(同志社大学大学院 教授)

。地域が成立しなくなった？

市町村という枠の中では成立しなくなった？

身近な町内・集落 それ自体も成立しなくなった？



もともとあった地域の力をとりもどす必要がある
＝ 地域再生の必要性

。身近な地域は元気か？

- ・ 行政区、自治会の活動は活発か
- ・ 自治会長、役員だけが働いていないか
- ・ 活動の担い手は固定化していないか
- ・ 各種地域団体は元気か、連携しているか
- ・ ボランティアや新しい市民団体は生まれたか
- ・ 住民は地域活動に積極的に参加しているか



自分の暮らしの中に問い込めてはため

。「新しい公共」を支える地域

真の豊かさを求めて：身近な暮らしを「みんなの問題
解決手段」から再構築していく

。まちづくり・地域づくりの考え方

- ・まちづくりとは：一人一人の暮らしに必要な地域社会の維持と発展のための活動

1960年代 - 線の街づくり (道路)

1970年代 - 面のつくり 町づくり

1980年代 - まちづくり

市民・コミュニティ組織が担う

。地縁団体・地域自治組織の衰退現象

- ・包摂型組織の衰退と縦割り団体の硬直化
→ どのように再編成していくか

。地域団体・自治組織の課題

- ・地縁型自治組織の現状
→ 行政下請け、重い負担、地域活動の担い手、名誉職
- ・各種住民団体の設置と活動
→ タテ割り、活動の硬直化と停滞、自主性や自発性の欠如
- ・住民のニーズにこたえない
- ・担い手・後継者不足

。市町村のまちづくり方針の転換

- ・合併による地域づくり：合理化効率化、専門化
- ・行政ができること：「選択と集中」
- ・従来型地域行政の有効化・効率化
→ 施設、サービス、委託、補助金等の見直し
- ・地域コミュニティ重視による新しい地域づくりへ

○ これからのまちづくりの方向

- ・地域力重視：地域内の充実、域内循環重視、地産地消
- ・「ないものねだり」→「あるもの探し」→「ないものづくり」へ

○ 地域資源の発見を具体的に進める

- ・地域資源、
 - 地域経済、自然、伝統文化、生活様式
- ・地域にある資源を採る
 - 優れた産品、見逃していた評価されていない資源
- ・必要な資源をつくりだす
 - 地域の条件にあったものづくり
- ・必要な人材を作り出すひとづくり
- ・地域の外にある資源を活用する
 - ネットワーク

○ まちづくり人材像は

- ・地域への熱い関心、地域資源への深い洞察、地域の将来への展望をもつ
- ・地域課題の自覚、課題解決への意欲、解決のための知識、技術の習得、その実践ができる

○ 地域力を高めるために

- ・地域力を高めるためには、自律自助が基本、
- ・協働型まちづくりを進めていく必要あり

「地域の再生と活性化～市民が豊かになる地域再生策～」

講師：久繁哲之介氏

(地域再生プランナー)

○ 地域経済循環率：消費、投資が、地元で再循環する割合

地域経済循環率 × 売上額 = 地域経済循環額

大資本チェーン店 13% 100 13

スローフード店 80% 25 20

地域再生は 売上額でなく「地域経済循環率」で決まる

○ 3ユウ戦略：成功は「交流、高報、効率」のどれかで差別化

高級戦略：カリスマサロン 7千円/40分 希少性・物語性

交流戦略：友達の家屋 4千円/40分 顧客毎のコト

効率戦略：ABハウス 1千円/10分 早さ、安さ

○ 成功定義

成果 = 知識力 × 思考力 × 使う力

ポイントは 掛け算であること (ゼロ、マイナスがあると 答えもなくなる)

※ 同じシステムを もってきても 同じようにはならない。

① みかけを変える

② 薬を使う

③ もともとの考え方を 変える

「まちの文化人類学 ～ 住み続けたまちとは ～」

講師：船曳 建夫 氏
(東京大学名誉教授)

(1) これまでの日々

・ 三つの文明 (= 生存の方法)

→ 狩猟採集 (移動) ・ 農耕 (定住) ・ 産業 (移住)

・ 私たちは 大きな「国」の枠組みの中

「ムラ」という社会集団

「世間」という社会関係

} の組み合わせで生きている

(2) 今の日々

「インテリ・オタク・ヤンキー」という 社会・文化「傾向」のモデルで考える

・ インテリ ... 貴族と武士、「学歴エリート」 → 自省、譲歩あるか?

・ オタク ... エエ戸の商人、武士の次男 → 何か好ようになるか?

(生存活動におけるエネルギー消費量少 → サバイバル強)

・ ヤンキー ... 非農業民、「山人」、漂泊民、職能集団、野武士

見えない人々

→ 外に出ておぼろげか?

ヤンキーは

地元志向の点で... インテリ傾向と異なる

結婚、ファミリー志向の点で... オタクと異なる

(3) これからの日々、のまち

三つの傾向の折り合いは? 「リーダーシップ」を握るのは?

様式第2号（政務調査活動実施報告書）

平成24年 12月 3日

井原市議会議長

様

宮地 俊則

井原市議会議員

簀戸 利昭

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成24年11月21日～11月22日
2. 研修会等の開催 地または視察先	全国市町村国際文化研究所
3. 研修会等の名称 または視察内容	平成24年度第三回市町村議会議員特別セミナー
4. 研修会等の講師 名または視察先 の担当者名	武中 功氏（株）よしもとクリエイティブ・エージェンシー 新川 達郎氏 同志社大学大学院教授 久繁 哲之介氏 地域再生プランナー 船曳 建夫氏 東京大学名誉教授
5. 調 査 活 動 内 容	別紙のとおり

1. 報告書は、調査活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

第3回市町村議員特別セミナー

11月21日

「活気あるまちへの挑戦～リーダーに必要なもの～」

(株) よしもとクリエイティブ・エージェンシー専務取締役 竹中 功氏

芸人は商品である。・・・人がひとを磨いて売り飛ばしている。

芸人は個人事業主である。・・・100年間芸人と契約書を交わさない。

約束を重んじる。

伝える——モヤモヤ、ワクワク、ドキドキ（笑かす）——話す——書いて伝える

(1/10) (1/10)

——感じる、考える

(1/10)

伝えることは、話すと10分の一、に書いて伝えると100分一、に感じる人は1000分の一に減少する。

考える、決める、動くを共有する。

産業を興す

あなたの街に住みますプロジェクトは47都道府県で一人採用する。自宅がオフィスとし地域で笑いを提供する。

売れる人は売れるまでやめない。

「地域再生に必要なもの」

同志社大学大学院総合政策科学研究科教授 新川 達郎氏

1. 地域が直面している問題

- ・身近な地域は今どうなっているのか：縮退社会、少子高齢化、人口減少
- ・経済成長の停滞、雇用問題、財政危機、福祉の切り下げ、教育問題
- ・社会を支えてきた地域が崩壊し始めている：全国の現場から

2. 地域課題を解決するまちづくりを進めるために

- ・地域を取り巻く環境のへんかに対応する：地方分権、市町村合併、行政構造変化
- ・社会経済環境変化に応える：少子高齢、人口減少、経済停滞、地域の担い手不足
- ・「新しい公共」の考え方：住民、事業者、地域団体、NPOが支える公共

3. 地域自治による地域再生

- ・まちづくり・地域づくりにおける市民団体、地域組織の役割
- ・市民（住民）による主体的な活動と社会参加が重要

- ・地縁団体、地域団体の衰退現象：活動の不活発、組織の硬直
- ・地域自治組織の再生：地域自治区、地域自治協議会、まちづくり協議会等
- ・地域自治によるコミュニティ再生：地域の（絆）を取り戻す
- ・地域自治を目指す市町村行政の方向転換

4. 地域資源によるまちづくりに向けて

- ・まちづくりを目指す市町村行政の方向転換：身近な地域への視線
- ・まちづくりの方向：内発的发展、地域内循環、地産地消、新地域主義経済へ
- ・まちづくりのための地域資源：多様な価値を持つ地域資源、
- ・地域資源を発見する：「ないものねだり」から、「ないものづくり」へ

5. まちづくりは人づくりから

- ・まちを育む人育てを考える：共に学び、共に変わり、共に成長する
- ・まちづくり人材像：地域への熱い関心、地域資源への深い洞察、地域の将来への展望
自らの主体的な選択と集中

協働型まちづくりが地域力を高めるこれからの方向

新しいまちづくりのためには、地域コミュニティ、地域の活力やセーフティネットが重要

11月22日

「地域の再生と活性化～市民が豊かになる地域再生策～」

地域再生プランナー（民間都市開発推進機構都市研究センター研究員）

久繁 哲之介氏

自給のバランスによって地域は成り立っている。

- ・就職ができなくなる地域
- ・産業の創出
- ・商店街の活性化

※大型店があれば生活できる、市民は困らない。

商店街活性化は過大な税金を使って事業をするべきなのか？

アンケートの取り方も問題

商店街で過ごしたい→駐車場が必要。

商店街で過ごしたくない→駐車場が必要なのか？

成功はオフィスにはない。現場にある。

宮島のもみじまんじゅうの例

伊藤博文公が宮島の藤井屋に立ち寄り、饅頭を当家の娘が差し出したところ、娘を見て、もみじのような手で、「御嬢さんの手、紅葉のように美しい。」言われたのが起源とされている。

物語を作成し、紅葉まんじゅうの箱に入れた。

※柔軟な発想のもとに行動に移し成功した例です。

1. 地域再生は売上額でなく {地域経済循環率} で決まる

地域経済循環率×売上額＝地域経済循環率

2. 成功（成果を出す）定義と方程式、考えた事、使った事

視点 1. 掛け算は、ゼロが一つでもあると成果はゼロ。

視点 2. 掛け算は、分解して何に注力すべきか考える。

視点 3. 正反対な知識と比較考察。

成果＝知識力×思考力×使う力

成功のヒントは「業界・仕事の外」「顧客の本音」に有り。

「まちの文化人類学～住みたいまちとは～」

東京大学名誉教授

船曳 建夫氏

(1) 今の日本

＊2012年の日本列島の世間を、「インテリとオタクとヤンキー」という三種類の社会・文化「傾向」のモデルで考えてみる。

これは「傾向」であって明確な集団ではない。それゆえに、一人の人に、三つすべての傾向があってもおかしくない。

＊インテリ：それは歴史的には、貴族と武士、つまり支配者の持つ傾向の歴史的継承者であり、明治以降それ以下の学歴エリートとして人材をリクルートする中で、傾向は確立した。

＊オタク：それは、歴史的には、江戸の町人、ぶしの次男、三男「風狂人」などの源流を見ることができる。しかし、オタク的傾向が維持できるためには、日本列島に生息の隙間（ニッチ：小環境）を作るだけの余裕がなければならない。

しかし、オタクは生生活動におけるエネルギー消費量が比較的少ないので、経済の悪環境にもサバイバルしやすい。

＊ヤンキー：それは、歴史的には漁業民も含めた、非農業民であり、柳田国男の考えた「山人」であり、「河原者（歌舞伎）」であり、漂白民であり、職能集団であり、武士ではなく、野武士であり、見えない人々である。

ヤンキーのひとは、エネルギーを持ち、地元志向の点で、インテリ傾向と異なり、結婚・ファミリー志向の点でオタクと異なる。

(2) これからの日本のまち

ヤンキーと称された人

田中角栄、小泉純一郎、橋下徹 等

これからの、日本をゆだねられるひとは？

漁業（非農業感）のほうが、復興は早い。

様式第 2 号（政務調査活動実施報告書）

平成 24 年 11 月 30 日

井原市議会議長

宮地俊則様

井原市議会議員

西田久志

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実 施 期 間	平成 24 日 11 月 21 日（水）～22 日（木）	
2. 研修会等の開催 地または視察先	財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所	
3. 研修会等の名称 または視察内容	平成 24 年度第 3 回市町村議会議員特別セミナー	
4. 研修会等の講師 名または視察先 の担当者名	（株）よしもとクリエイティブ・エージェンシー専務取締役 同志社大学大学院総合政策科学研究所教授 地域再生プランナー 東京大学名誉教授	竹中功 新川達郎 久繁哲之介 船曳建夫
5. 調 査 活 動 内 容	別添のとおり	

1. 報告書は、調査活動終了後 2 週間以内に提出すること。
2. 調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

11 月 21 日 (水)

「活気あるまちへの挑戦～リーダーに必要なもの～」

(株) よしもとクリエイティブ・エージェンシー専務取締役

竹中 功 氏

明治 45 年
 100 年 広報担当 商品 (大切に扱って、他) 100 年 作者も作っていい!
 口約束、びつびつ、うらやまがない。

1930 春田

寺本 VS NHK

電波 12 世紀

1960 年代

TV

お笑い

お笑い

Xティミックス

NHK

笑い

劇場

お笑い

モヤモヤ

モヤモヤ

言葉

書く

10 → 100 → 1000 → 10000

感じる事をどんどん
 おしえていく。

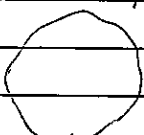
感じるより、感じてくたさい。

会社が「マニュアル」を作らない。

「ズ」

2人で合せる。

A



B

軸が新しいから
 B君がわかる

ウレウレの法則

- ① 7房 → 4.3
- ② ジュースにして
- ③ タネ だけ

- ④ かんくグリと交換
- ⑤ 皮がほしい
- ⑥ かんくみ 10/100 からは、かんく 交換

○ どうかでバランスを身するとか「リム・バート」.

A ○ ○ B
○ C

○ 数の分配:

○ 質の分配

笑いの平和産業

若者も

価値

のり → みかん

平等

さくらんぼ → みかん

かたもみ10分 ↔ みかん

アイス 円お形



見たかをかえたら

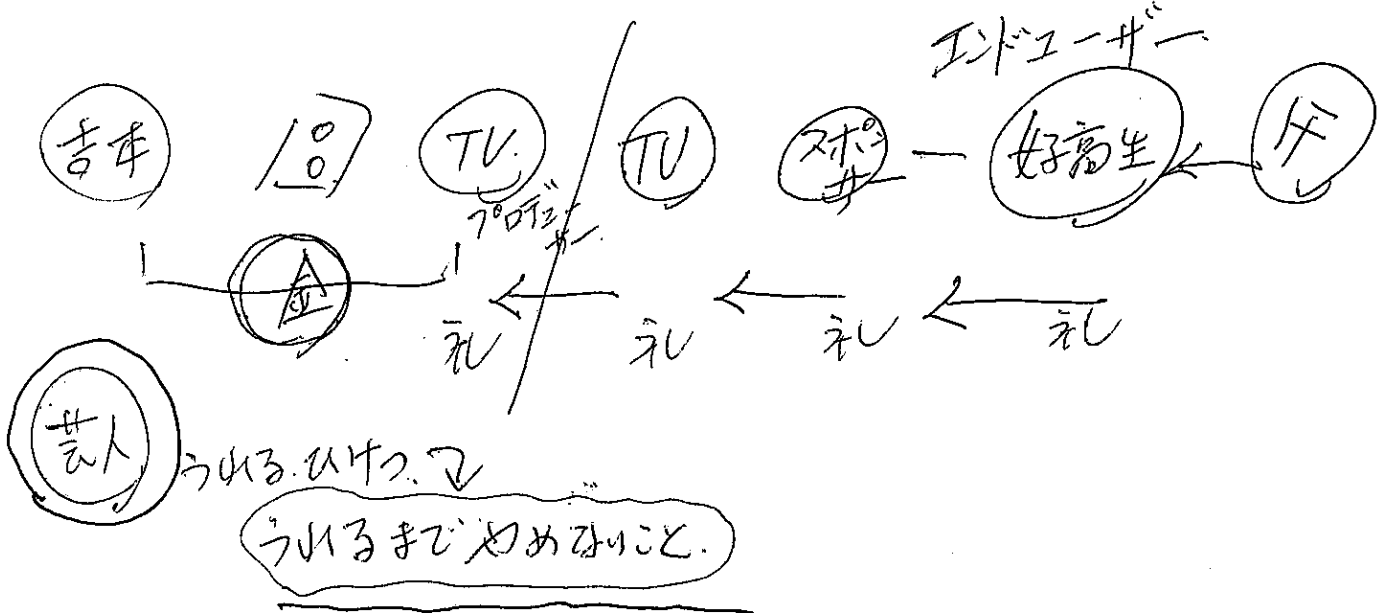
— 上町 —

マーケットランジ

(どこでこのコングリがうまい)
(いついつの朝やけがいい)

(産業)は

予算が回っていく。連サレいく。人づり、物づり、金づり



(マーケティング) → ロビー で、生の声を上げる。

平和に立えられた 100年の歴史

地域とは、その考え

○地理的な範囲

○行政、経済、社会活動の区域

○同じ地域の人、人の結びつき

○地域コミュニティ(共同体) 人々の体制

○身近な、地域の

地域の再生

○町のすいたい進行中、高齢社会、縮小社会

○地域の資源、人材を有効利用

○まちづくりの活性化にシフト積極的に取り組む

○まちづくりは、地域再生を考える

なぜ地域が問題なのか

○地域コミュニティの注目が減る

○生活の場から問題解決が求めらる

○政府の失敗、行政機構から脱却できたか

○市場の失敗、企業依存から脱却できたか

○レカレ、地域組織の弱体化、地域社会の崩壊

○東日本大震災の衝撃、地域の壊れと再生の難しさ

○低成長経済、財源不足、この地域再生は可能か

果たして地域は元気が

○行政区、自治会の活動は活発か

○自治会長、区長や区長会の役員だけが働いているか

○活動の担い手は固定化しているか

○社協、PTA、各種団体は元気が、連携しているか

○住民は地域活動に積極的に参加しているか

2

地域は今

- 人口減少、将来はどうなるのか、
- 高齢化、少子化、どこまで進んでいるのか、~~断崖~~はかきあ
- 地域の組織問題 高齢化、硬直化、柔軟化
- 地域の将来問題 どうか放棄地は？ 生きたかまは
- は荒れているのか、一番どうしようもないのか
- 市町村行政がどうなる？ 地域行政はどうか、
- 停滞しているのか

新しい公共を支える地域

- 地域自治体、各種団体 NPO などの期待 待 新い
- 公共の担い手、つくり
- 行政だけではなく住民や地域団体も公共活動
- も担う、新い公共 近
- 責の重さを求めて、身体をくらしを「みんなの問題
- 解決手段」から再構築していく

まちづくり、地域づくりの考え方

- まちづくりは一人一人の暮らしに必要な地域社会維持
- 発展のための活動
- まちづくりの主体、市民の地域活動への参加
- 市民参加によるまちづくり、市民、住民が主体のまちづくり
- まちづくり、地域づくりは誰のためか、市民による市民の
- ための市民の地域づくりを、
- まちづくり、地域づくりを支える場：地域自治
- 組織、住民団体

市民団体地域組織役割

- まちづくりは、市民、コミュニティ組織が担う
- 地域の維持発展の担い手として、市民、コミュニティ組織
- 市民の社会参加や市民参加のシールとしての市民団体、コミュニティ組織
- 地域の文化や一体感形成、防災安全機能、教育施設機能の担い手、地域組織
- 地域団体、地域自治組織のすいた現象、コミュニティ再生と地域自治再生
- 地域社会の担い手としての地域コミュニティ、19項目
- 地域組織のすいた、形が問題、住民の地域組織は行政、市場、個人の動きを考えた変化、(住民、くらしの変化)
- 生活型組織のすいたとたて割り団体の垂直化
- 地域

地域団体、自治組織の課題

- 地域型自治の現状、行政下付、重なる、地域活動の担い手、名目上
- 各種市民団体の設置と活動の割り
- 全国に広がる地域自治の組織化
- 地域自治制度の制定、地方自治法
- を軸とする自治基本条例制定
- まちづくり型の地域自治組織化、地域づくり、協会の、まちづくり委員会
- 地域型、自治推進会、地域自治協会

地域自治を進める行政の課題

- 行政の地域自治組織化、形は定まっていますが、すいに動かない、担い手通し —

行政の文化

- 下請け型で重荷に
- 行政いそぐ化してケイタイ化

地域自治の確立に向けての行政の基本姿勢

市町村のまちづくり方針の転換

- 行政がでることで「選択と集中」

地域コミュニティ重視による新しい地域づくり
まちづくりとはなにか

- 地域活性化 地域の発展 - まちづくり、まちおこし、地域づくり、地域再生の様々な顔

これからまちづくりの方向

- 分散分権のまちづくり
- 多様で個性的なまちづくり

まちづくりのための地域資源

- 地域資源とは、その存在によってまちづくりが変化する条件

- 物や形のあり資源、と無形の資源、ヒト、モノ、コト情報

地域資源の発見を具体的に述べる

まちづくりのための人材像を考える

地域課題への自覚

まちづくりは人づくり

5 まちづくりは人づくり

人づくり3段階の原則、共に学び共に育ち

こけからのまちづくりの方向

○新しいまちづくりのために：地域の活力・安心・安全（セーフティネット）

地域課題を解決する協働型まちづくり

地域力を高めるために

○自律自助が基本

久繁哲之介 121122 大津講演資料：地域再生の理論と現場を「知る、考える、使う」～理論編

7つの武器 ①H/WとS/WとO/Sの連携、②オンとオフ(仕事と私事)の連携、③表より裏(売りたい→買って頂く)、
④自分に有利な土俵(価値軸)を創る、⑤HowよりWhyが先、⑥リアリティを感じるエスノグラフィ、⑦成功方程式
地域再生3つの知識 ①サードプレイス ②地域経済循環率 ③交流・高級・効率「3コウ戦略」

O=原点) あなたは誰=顧客(エンド・ユーザー)の為に働くべき? 市民・FI(20~34歳女性)→顔が見える顧客

1) 自治体が描く「商店街活性化」計画書(特に、ブロック矢印)、どこが&どのように間違っていますか?

顧客が激減&商店主も激減→シャッター商店街 → 街の顔「商店街」を(税金を使って)活性化しよう!

2) 街なか再生を願い、久繁に講演と懇親会を依頼した公務員の答え、どこが&どのように間違っていますか?

私)なんで私だけビールなの? → ウーロン茶で乾杯の公務員)私達みな、自動車通勤ですから!

3) サードプレイス : 働、住、交流のどこに時間・金が消費される? → 詳細は『コミュニティが顧客を連れてくる』第1話

DINKSなO/S(このままの人もいる) → 親になって、地域志向なO/Sへ 衰退する地方都市

働く場 : 東京、昼夜とも外食(平日消費9割) 東京、外食は昼だけ→消費減少 車通勤だから飲まない

住む場 : 川崎、寝に帰るだけ(消費は大型店) 川崎、子供と公園→仲間ができる 趣味はゴロ寝&ゴルフ

交流の場 : 伊豆、リゾート消費(休日消費9割) 川崎、市民と地元で交流 ない(家と職場の往復)

4) 地域経済循環率 : 消費・投資が地元で再循環する割合 → 詳細は『コミュニティが顧客を連れてくる』第2話

地域経済循環率 x 売上額 = 地域経済循環額

大資本チェーン店 13% 100 13 ← ② 地権者が私益だけを考えると、地域経済が循環しない

スローフード店 80% 25 20

ここがポイント↑③

↑① 地権者は、歩合賃料を稼げる「売上額の高い店」に土地を貸したい

③ 地域再生は売上額でなく「地域経済循環率」で決まる

5) 3コウ戦略 : 成功は「交流、高級、効率」のどれかで差別化 → 詳細は『コミュニティが顧客を連れてくる』第9話

3コウ戦略 事例(ヘアカット) 価値→消費3つの価値軸「時間、金、コト(したい事・できない事の解決)」

高級戦略: カリスマ・サロン 7千円/40分: 希少性と物語性→ブランド力か地域力ある「大企業から個人まで構築可能」

交流戦略: 友達の床屋 4千円/40分: 顧客毎のコト・関心事→それを交流しながら探り解決できる「個人が有利」

効率戦略: QBハウス 1千円/10分: 早さ(まとめ買い)、安さ→大量に仕入・陳列・駐車できる「大企業が有利」

6) H/WとS/WとO/Sの連携 : 成功事例 ①できる男は薬指が長い ②日本初、レトロ商店街に観光客20万人

①人生論「できる男は薬指が長い」 ②商店街再生論「日本初、レトロ商店街に観光客20万人」

H/W 人差指を詰める(相対的に薬指を長くする) レトロに見える外観工事に補助金を出す

S/W 男性ホルモンを誘発する薬を服用する 商業者がモンペ姿(昭和衣装)で雰囲気を出す

O/S 以下の成功論を久繁から学び、実行する 昭和の商店街は市民のサードプレイスだった本質を取り戻す

7) 成功(成果を出す)定義と方程式、考えた事、使った事: ありますか?

成果 = 知識力 x 思考力 x 使う力

視点1: 掛け算は、ゼロが一つでもあると成果はゼロ! 実践値 3% = 80% x 20% x 20%

視点2: 掛け算は、分解して何に注力すべきか考える。例: 売上 = 商品力 x 集客力(技術 x 営業)なぜ両部門は仲が悪い?

視点3: 正反対な知識と比較考察。例: 池上彰氏は新聞5紙を丁寧に読め⇒大前研一氏は有害な新聞テレビを見るな

8) 成功ヒントは「業界・仕事の外」「顧客の本音」に有: 仕事(表)と私事(裏)の連携⇒公務員は表裏・公私を分断しすぎ

例1「葉っぱビジネス」誕生秘話: 寿司屋で女性客をナンパしようと「エスノグラフィ」→「この葉っぱがカワイイ」に閃く

例2「もみじ饅頭」誕生秘話: 伊藤博文氏のお嬢さんの手、もみじのように美しいに商品化・物語化を閃く

本日の講演詳細は10月1日刊行の拙著『コミュニティが顧客を連れてくる』で確認できます。事例の中には、

議員さん企画の講演が御縁のものもあります。講演ご依頼は、ブログ「久繁哲之介の地域力向上塾」へ。

講演「まちの文化人類学 — 住み続けたいまちとは」のためのメモ 船曳建夫 (2012.11.22)

(0) まちとは何か、そこに住むのは誰か、いま日本列島の人間的力学はどのようなか

(1) これまでの日本

* 人類の三つの文明 — 狩猟採集(移動)・農耕(定住)・産業(移住)

* いま、日本列島の私たちは、大きな「国」の枠組みの中、「ムラ」という社会集団と「世間」という社会関係、という二つの組み合わせで生きている — まちとは？

注1: 「日本」とは、日本語を話す人たちの作る世間(社会)のことである — その世間の

中に、人は「国」というものを考える — その逆ではない

* 日本列島の人々は、農耕文明の時代、定着者(農民)と移動者(支配者・非農業民)と分かれた → 江戸時代の「イエ・ムラ・藩」システム。明治維新・産業革命以降、定着者(地方人)と移住者(中央人)に分かれた。

(2) いまの日本

* 2012年の日本列島の世間を、「インテリとオタクとヤンキー」という三種類の社会・文化「傾向」のモデルで考えてみる — これは「傾向」であって、明確な集団ではない — それゆえ、一人の人に、三つすべての傾向があってもおかしくはない

* インテリ、それは歴史的には、貴族と武士、つまり支配者の持つ傾向の歴史的継承者であり、明治以降それ以下の身分からも学歴エリートとして人材をリクルートする中で、この傾向は確立した。それは現在も続き、このセミナーの大多数はこの傾向を持つ (@@)

注1: 中国では、それは、歴史的に文字の読める「士」、読書人、科挙合格者であり、現在は共産党員(人口の5~10%)である。

* オタク、それは歴史的には、江戸の町人、武士の次・三男、「風狂人」などに源流を見ることが出来る — しかし、オタク的傾向が維持できるためには、日本列島に、生息の隙間(ニッチ:小環境)を作るだけの余裕がなければならない (@@) — しかし、オタクは生活動におけるエネルギー消費量が比較的に少ないので、経済の悪環境にもサバイバルしやすい

* ヤンキー、それは、歴史的には漁業民も含めた、非農業民であり、柳田国男の考えた「山人」であり、「河原者(歌舞伎)」であり、漂泊民であり、職能集団であり、武士ではなく、野武士(サムライ)であり、見えない人々である

注3: いわゆる武士にも、江戸時代の文官としての武士と、鎌倉以来の(野)武士・サムライと二つに、その傾向を分けることが出来る

* ヤンキー、日本における新しい流れ、そして、それが見えないことについて (@@)

* 地元志向の点で、インテリ傾向と異なり、結婚・ファミリー志向の点でオタクと異なる

(3) これからの日本のまち

* 祭り・ベンチャー(?)・愛国心

* 三つの傾向はどこで折り合いが付くのか? — インテリは自省、譲歩するか? — オタクはただ乗りをやめるか? ヤンキーは、イエ・ムラ(族)以上の枠組みに意味を見いだせるか? — 「リーダーシップ」を握るのは?

(まとめ)

町づくりは人づくり

人づくりには3段階の原則がある、それは共に学び、共に育ち、共に変わることが必要だと思う。自分自身のきずき興味関心の触発、新しい取り組みへの意欲が湧いてくる、育ち始めると成長速度は加速していく、すなわち気づきの環境づくり育ちの環境づくりが大切である。

これからのまちづくりの方向は身近な地域からのまちづくり多様な主体のまちづくり、パートナーシップの（協働）によるまちづくりが大切である。それぞれが単独では解決できない問題に連携協力して取り組むことが必要であり、地縁型からNPO・NGO型の機能的な活動に向かう協働に転換することが重要な要素を持つであろう。

様式第2号（政務調査活動実施報告書）

24年 12月 6日

井原市議会議長

宮地俊則

様

井原市議会議員

馬越宏芳

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	平成24年11月21日(水)～22日(木)
2. 研修会等の開催地または視察先	滋賀県大津市唐土町13番1号
3. 研修会等の名称または視察内容	全国市町村国際文化研修所
4. 研修会等の講師名または視察先の担当者名	竹中功、新川建郎、久繁哲之介、船曳建夫
5. 調査活動内容	吉本興業の竹中さんの講演は、もの見方を伝えるというよりも、町おこしの考え方を勉強。同志社大の新川さんには、地域再生に必要なものを原点からお話された。 久繁さんは3つの知識 ①サトフス、②地域経済循環率 ③交流・商談・交際「3つの戦略」と話しが具体的であった。 船曳さんは日本人と2種類の社会文化傾向モデルで考える「インテリとオタクとヤンキー」に分かれ、どこで折り合いがつくのか、又それ以上の枠組みを見いだせるか、なかなかおもしろい。

1. 報告書は、調査活動終了後2週間以内に提出すること。
2. 調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。